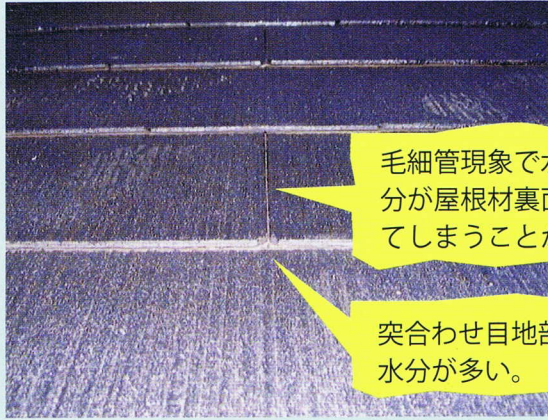
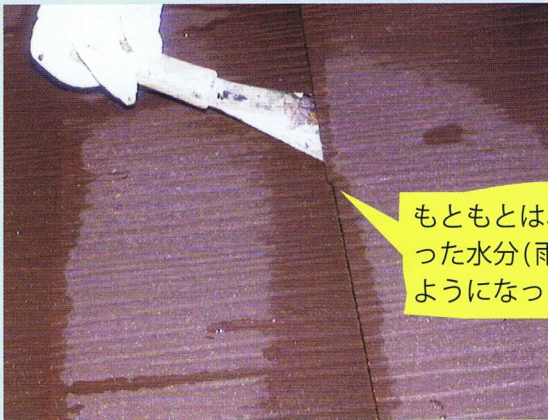


水分の侵入と排出のしくみ



毛細管現象で水平方向から水分が屋根材裏面に吸い込まれてしまうことがある。

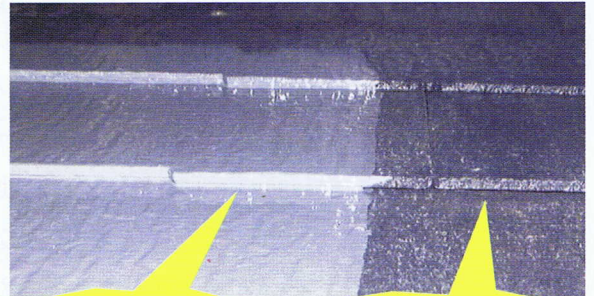
突合わせ目地部から侵入する水分が多い。



もともとは、屋根材裏面に入った水分(雨水)は排出できるようになっている。

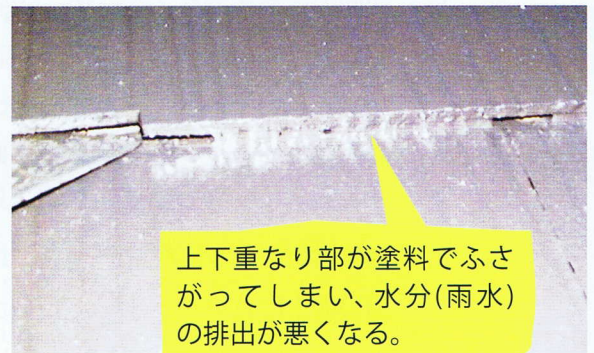
● 塗装前、雨上がり2時間後の様子

縁切りとは…？ それはなぜ必要か？



塗料で上下重なり部がふさがれてしまう。

もともとは、このように少しの隙間が確保されている。



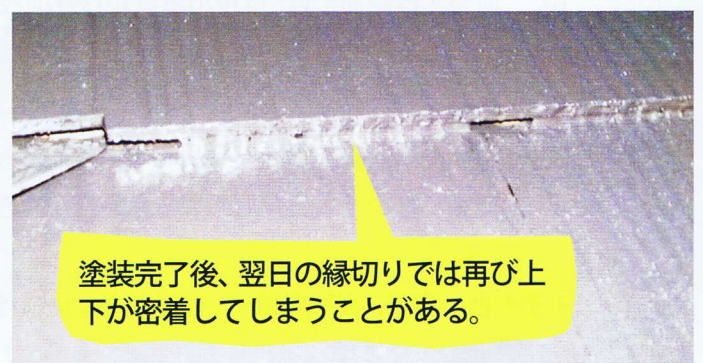
上下重なり部が塗料でふさがってしまい、水分(雨水)の排出が悪くなる。

● 試験塗装の様子

従来の縁切り工法は…



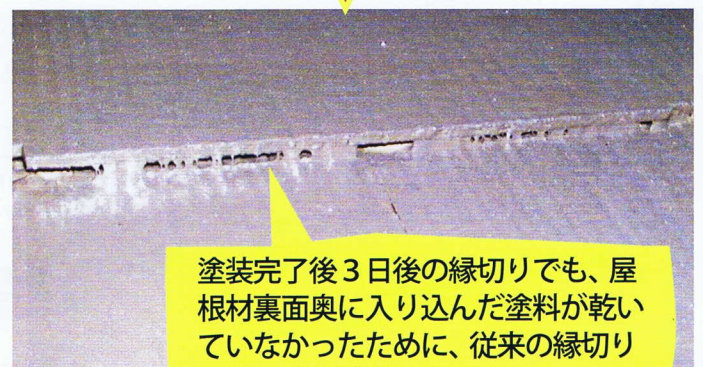
塗装完了後の縁切りでは塗膜が剥がれてしまうことがある。



塗装完了後、翌日の縁切りでは再び上下が密着してしまうことがある。

従来の縁切り作業では…

1. 皮スキ、ケレン棒、カッター等での縁切り工法では屋根材コグチ部が破損することが多かった。
2. 適度な通気性確保の有無確認が難点だった。
3. 工事仕様(使用塗料・工法)によっては再び屋根材上下重なり部が密着してしまった。
4. 仕上げた屋根面にキズや足跡をつけてしまった。



塗装完了後3日後の縁切りでも、屋根材裏面奥に入り込んだ塗料が乾いていなかったために、従来の縁切り工法では困難だった。

タスペーサー縁切り工法

より良い通気性を確保するために
タスペーサー工法をお試しください。

1 高圧洗浄



屋根の状態をよく観察し、丁寧に高圧洗浄を施す。

2 下塗り



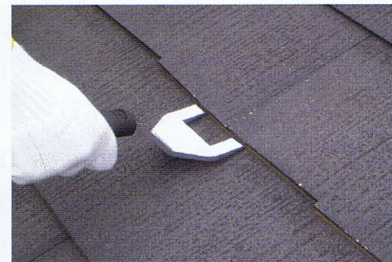
乾燥後、シーラー・プライマー等の下塗りを施す。

3 タスペーサー挿入中



タスペーサーは、シーラー・プライマー等の下塗り後に、屋根材
(約910mm)幅に対して左右15cm位のところに挿入してください。
※㎡あたり約10個使用します。

挿入作業



◆タスペーサーの挿入しにくい箇所や、前回の塗替えでの塗膜で、屋材上下が密着している箇所は、エパッター（皮スキでも代用可）を使い隙間を開けてから挿入してください。

4 中塗り～上塗り



5 塗装完了



タスペーサーを抜き取らずにそのまま完了。

6 仕上がり

より通気性のある
屋根塗替えが可能に



適切に縁が切れ、水分（雨水）が溜まりにくくなる。通気性も適度に確保できる。

タスペーサーの安全性

タスペーサーを挿入した箇所
の真上や周囲に、普通の作業性で、ある程度の加重がかかっ
ても、屋根材が破損しにくいことがわかります。



ご注意

1. ご使用の際には、必ず取扱い注意事項をお読みになってから使用してください。
2. 必ず規定の塗付量と工程で作業してください。

塗膜がきちんと形成されていないと、部材と屋根材小口部の密着性が悪くなり、部材が抜け落ちる危険性があります。ご注意ください。